

『法中・法体装束抄』による 平安～中世密教系法衣袈裟構成比較表

平安密教の流れを汲む宗派の法衣袈裟のみ記載、禪宗系統には対応していません。 使用例：中世絵巻や肖像に見られる僧衣の分析

法衣構成比較表

法衣	着用者	色	調	袈裟	下具
法服（袍装）	法皇、法親王 晴儀料	赤 小葵文、浮織・堅織、裏有。夏は薄物。 打裳同色。	有文（轡唐草、蓮花菱襷など様々）綾織物、平絹・袷（＝裏地付）・打裳、別仕立て、単（＝裏地無し・方立（僧綱襟を立てる）・縫腋	衲・甲・平等、七条・九条の袈裟・横被	表袴、大口、襪、鼻廣沓、念珠、櫛扇、帽子 修多羅
	法親王料か	紫			
	僧正	香			
	上下通用	墨			
鈍色	受戒儀等	薄墨（衣袍装とも。表袴も薄墨）	無文・単・生絹・精好・穀織・方立・裳別（単、白或は黒）・縫腋	五条袈裟（平袈裟も）	表袴、大口、襪、鼻廣沓、念珠、櫛扇。 また、下脇は多く指貫。指貫の料は、白下袴、指貫、冬は杓、夏は単大帷子
	僧正	香（別名、香鈍色・星月夜）			
	凡僧以上僧正まで上下通用	白が本義。後代は正色も使用。浄衣の別称も 薄墨色のものを椎鈍というか			
袈代	法皇、法親王の宿装束	有文・袷・縮羅（しじら）織、熨斗目綾、平絹等、俗体直衣の調に同じ・方立・入欄（裳付）で長く裾を引く・開腋	無文・単・生絹・方立無・入欄引裾・開腋・袈代とほぼ同型（長素絹とも）	五条袈裟	指貫、大口、大帷子、杓、櫛扇（夏は蝙蝠）、念珠（刺高）
素絹	法会、参内時など	白を本義とする		五条袈裟	指貫 単 帷子、念珠、櫛扇
半素絹	上下、無位 通用	白を本義とする		五条袈裟 内々では省略	指貫 単 帷子
裳付衣	常の衣	墨 墨染衣、空衣（うつほ）とも	無文・単・生絹、麻など・方立無・入欄・開腋	五条袈裟 内々では省略	表袴、大口、襪、鼻廣沓、念珠、櫛扇。略儀には襟を半分に折る、袴を指狩に変える等する
付衣	凡僧以上か	香薄物、白薄物、薄墨・着用例；菊文（法皇・法親王）牡丹文（摂家）桐文（足利義満）	有文或は無文・薄物、長絹、布（麻、葛等の織物）・裳付衣に僧綱襟を立てたもの		

袈裟構成比較表

袈裟	法衣	着用者	調		横被（皮）	条数
衲袈裟	法服（袍装）	晴儀、大僧正以下凡僧まで	綾織物、或は紺地錦	縁と甲は別布・袷	唐錦、織物、縫物等、様々	九・七条以上（大衣）
甲袈裟		僧正	『香甲』縁濃香、甲（田相部分）香 綾、有文			
		僧綱	『紫甲』縁黒、甲紫 綾、有文			
		凡僧（有職、非職）	『青甲』縁黒、甲青 綾、有文			
		已講	『檀甲』縁黒、甲檀 有文			
		威儀師・従威儀師	赤甲』縁黒、甲赤 有文			
平袈裟	法服（鈍色にも）	僧正以上	香 浮堅織、有文	縁甲共布・袷	仕立様に同じ 袈裟	七条
		清華家入道以下	白 浮堅織、有文			
		上下通用	白 生平絹			
		法服の時	布			
五条袈裟	鈍色、袈代、素絹等	法皇・法親王・摂家入道	香 練浮織物、堅織物	単	なし	五条
		凡人僧正、聴りて大納言入道の料	香 精好織			
		貴人入道	紫 浮織物に白貫文			
		上下通用	白 薄物、精好			
			薄墨 有文薄物、織物、綾、平絹等 裏付も			

※主に、『法中装束抄』『法体装束抄』（所収『新校群書類従 第六巻装束部（二）』内外株式会社に拠り、適宜「原色日本服飾史」（井筒雅風／光琳社出版）「有職故実大辞典」（鈴木敬三編／吉川弘文館）を参照した。

更新：2014/03/01 作成：逆名 元記事：<http://depth333trench.blog.shinobi.jp/Entry/149/> 無断での内容転載は御容赦下さい。